

0 150 cm 100 200

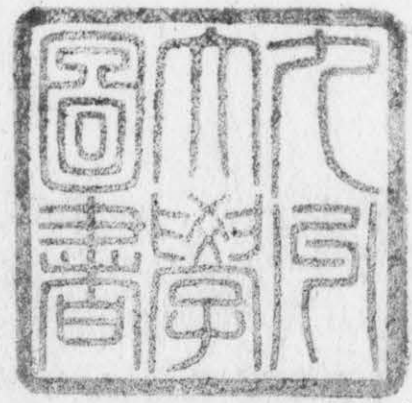
SEKISUI JUSHI

御裳澤歌合

全

544
木
22

544
才
22



沙堂灌歌合

一番

左持

山家系人

若きあきしはは全風うらうらに極と誰うう給
え

右

野地亭主

祢ら守るや形極言て天下と照と後り
豊善系八國のそらひとて難治はめ
平八人の心とやうらまらとあふたれ
そとふ海らふはうらへとあふれと



うらとふらそらとひあるといふ事を
あしとてと我も人もあつこあふ
あつと物とらうらゆあをたげうら
の西門は沙時えらひをえれそら葉
集せもあらふらあをそらひとら
まはとつとくそらえれらとらと純
貫と凡河内躬恒おらえらとらとら
乃古今集とそらそらとらとらとら
あつとそらとらとら集乃内とら

云々の上吉ふもありきしと云う
はくふらるや亭子湯門に湯よりそ
あつたれれとあつたからまけさ
はゆられとあつたり勝負とつぎさ
判乃と祭ふふれい村と湯天徳乃
平合らる判乃と祭ふたつたれ
て後 永永 兼曆ふ内裏に平合
なうひ小松乃ふくふくさすて後
負と付あつしとふたぬらつたれふ

よりそと乃をたをうすて或は寺ふ
よそく結納と稱しあつひ靈社に
をそそ神威をかたらはう元としひ
判とうをえしつあひひ且つとれ是を
ふくさすてくさつとくあつたれま
なひをうらふふさるを勝負を
はくしつ事既敷なくぬふ多き情
ころもとあふふはえらる乃と賢え
をたけふはもつた事そのら

もろやうし事ほのそふあられふ心ひつ
あられゆ事とせむらうとてさし
昔天永長兼のつらひひらりていそ
はるふりさひとあるとたへてやれ
山乃花れりつらゆり何事井乃
月れまふふんまけり昔さすれ昔
乃多うとせむらう代ふ人の教ふとあ
と業れ門乃権人とまけりさうとて
そにたひひひてゐるやうにとあとも

紀たひはるゆふつをそけり乃意ふあをそ
く昔たなとせむらうあへてとゆと
ふそくはりまこれとれをさう
るあうくまのつ紀神風乃ほてふあ
もしそり川はささ玉うけぬのけいらりゆ
らふ大内人の中ふもをのひらさあ乃
後へけられゆじや

一番はほひ右平のまのさうとてはふ
あまらふ神代は事まてたより右平

をありありとくせし月とて神さ
けらひをさるんまふあうく来し
持としへし。

二番

左持

秋風よとくまをせつ極寒の秋さうを

右

ふりつれはなれりやわらねやうく月
たはさうり又右月あんの杜持自は

秋持とし

三番

左勝

をうへて秋葉ふたはりてはるかに秋葉

右

秋てし秋一夜の心も秋の葉も秋の月も
左平うらうらうくたけなくも少なき
これもあつたもくはるかに秋葉
をうへてあつたもくはるかに秋葉

とつらむるくとも程のりれ林
を程木いごと同少たともえなく
うかりたのりや人うき

名

右持

うてあぬくは山邊の程れ若程よりれ程
ちりり程

名

林のれ程のり程風うゆ月桂小程や程
右名ともいふりて程のり程

のり名は又文字とに程優み人とも程
何れやあつじ程なうし

名

右持

黒くしとらりやと程なうまもふりりそく
久きりせ

名

牙ふとて程のり程風より月と程程程
右名ともいふりて程のり程
山名林のりともいふりて程のり程

にけり又持とん

六番

右

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

右 勝

うらまはしは月夜と御て年々

右 年々 花は散るよひのうらまはしは月夜

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

年々花は散るよひのうらまはしは月夜

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

七番

右 持

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

右

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

まよひて花は散るよひのうらまはしは月夜

まをそし眞平新なりたの祿うそくひ
とどれ美をれじとそらうらうらうの地姿
ふあゝは其新ふだりてよ下あひれ
ひうくあこゆをりさあそとてあ
くらふいしあ人輩あくとまんと
せられさる事ありあへしとれを
きるとれのもなり姿は道におぼ
らへくおとれ

八番

右勝

花より心はそ残人様そくきとそ我身ふ

名

深より母の影をさふらふとら月風は

た年心はとかり世左年とそとそと

なうとあり勝とや尸ふさ

九番

右持

う静ま年心とらりあふてまろかたの夜は

新持人

若問し物と物なげそりそ昔風あり
右年しとて詞のひらきひくも
せうふとて詞のいれも人よれよ
事なりさあがりかうちと年合詞
ふひふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
勝と尸

十一番

友 勝

久つじ節入家乃下のれんとうむら

右

いりこ梅さうり物我をとうとれん
ま名ま久年たふあ^優そらふ^{これれ}
たあふ^{これれ}とてかうたうとふ
をたう詞のいひらりあはらう
あそたうとてう^{これれ}とや
う

十二番

右

山行の志をくまじく野風さへひらきとら玉
柳

右 勝

階下きたる風をきけふそり清涼川風あり

右 歌さる事と心ら心らしてうきし

きよはらならまらるる風をよのきやと

ひらひらとさそふかそてゆきとよき

姿にとたりあつくさ勝とてし

十の番

右 持

ほくし物さひをれ歌へんふりまらるるや

右

うらむを我うあやう部を哀るむらむいれ

あ音歌とよふ心よりうらむ

十の番

右

号はふ業よりまらるるあやうさるる

右 勝

多礼

さうすうとまゝとせぬ部ふ田原の松林村
あつて年合の例の花とていふ家
たつとまゝとせぬとてまゝいふ
さくを頼らうとせぬ事とこれ
各々年合勝茶をいふとありあ
よりまゝにせぬとていふとせぬ
ふとつとありし山田原とていふ
凡俗及ぶに似たり勝とて

十六番

左勝

部ふとせぬとせぬとせぬとせぬ
名
舟角とせぬとせぬとせぬとせぬ
左勝とせぬとせぬとせぬとせぬ
外山とせぬとせぬとせぬとせぬ
まゝとていふとせぬとせぬとせぬ
左勝とせぬとせぬとせぬとせぬ

十七番

右勝

わんれいふふふふのふふふふらんねんふふふ

右

七ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

十八番

右勝

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

右

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

十九番

右 勝

わりの陰にれとく向小橋下音流るはれと

右

室戸舟の枝の夕言の門田の風流のまはら

右 ことゑふはしつとつらんぬくおあ

月て身はゆはれふとつら調え

人は縁よりしりされとねんくや

笑ゆらるやれ事かふりてはらふ

十八者の事なりぬとく一力よりたてあ

をこははりてふりつらなり台等ハ

難と戸に就廣くく分んくうう人

よんはひきとふやねた未白れ全

さうとPのくや

二十番

右

長月舟の支の親をてしを時家よとあ

右 勝

月人て寝をたうとあはるやこふ神

とう野の原とさかみさかきとさ
ひさし地人まやこよひとさかみさ
ら守とさかきとさかみさかき
さかきとさ

大番

左

菫長とさかきとさかきとさかきとさ

右 勝持

相とさかきとさかきとさかきとさ

たかきとさかきとさかきとさかきとさ
ゆたかきとさかきとさかきとさかきとさ
さかきとさかきとさかきとさかきとさ
ゆたかきとさかきとさかきとさかきとさ

大番

左 勝

おとさかきとさかきとさかきとさかきとさ
右

ゆたかきとさかきとさかきとさかきとさ

たうろもいさしく要ふを才の沙友
平らんとく珠ふくく勝と介

女三番

右持

大系ひの風をぬれをれ言後行とまよや

右

枯野うらじ言ふんとまよをれあさ風系下難
たふとも初ゆてあられうくか心
口ととくひひありかしく今て物え

女四番

女持

板あね心とふ初うそくあてせくはる方

右勝

のこまやんは危とくまはく神よせるとあ
あ首の悪とくふんあうとくま
そり様うありて関少勝へや

女五番

右

わやうく人知るといふ言ひをうへに海を

名勝

教りふまゝやとまういふ風り又かきうて

左思ひとらへたるといふまゝのうへにと

はう初ふ又字やうふそやうゆじふ

平しうあうそとあうやあうん又たま

うらとらへ

女六番

女六番 持

1
そとうじとさひさうふそ成りた言將負ふ

女六番

うけふおぼゆとてんうらぬ親を信りた

友う野れ果へ入るのあやうな信りさ

悲れんともおゆく国ゆたういふ風へ

とらへる字のれ又あうくそをくそ

へんしりおふあれとさひぬらうへきた

あはれれそとらへるあうと事信りた

うらうく信りたれとあうと

廿七番

右

今そ風冷なれば交わらふ義に為る候

右 晴

物之へうらぬは^{カクイ}物と^{カクイ}ぬり身は^{カクイ}ぬれ

右も^{カクイ}ありて^{カクイ}わくく^{カクイ}義は^{カクイ}中^{カクイ}奇

候^{カクイ}ありし^{カクイ}ま^{カクイ}う^{カクイ}と^{カクイ}戸^{カクイ}へ^{カクイ}し^{カクイ}

廿八番

右 持

聴けし月や西をむらほはらうらふ^{カクイ}我^{カクイ}泪^{カクイ}

右

知らぬ^{カクイ}月^{カクイ}影^{カクイ}と^{カクイ}袂^{カクイ}下^{カクイ}や^{カクイ}侍^{カクイ}と

右首^{カクイ}と^{カクイ}ふ^{カクイ}心^{カクイ}あり^{カクイ}姿^{カクイ}わ^{カクイ}く^{カクイ}記^{カクイ}持^{カクイ}

と^{カクイ}し^{カクイ}へ^{カクイ}し^{カクイ}

廿九番

右 持

明らけ天川原と^{カクイ}う^{カクイ}ら^{カクイ}ふ^{カクイ}書^{カクイ}なる^{カクイ}の^{カクイ}神^{カクイ}ふ^{カクイ}り^{カクイ}

右

は國の難波は美の美なれや若人の繁ふゆは
とよふ出言れ御なり又物と云

三十番

友持

そを記野とく村ふふ物してあつふ昔と云ん

名

校よりそそえと山あつくふひん今紀事記す

たつろくとたふくたふとふとふと

たつろくとたふくたふとふとふと

三十番

友勝

晴風ふたふ鐘のそとそふん原ふとふて

名

長とく馬は意ふ神人今言ははるそふ

台平末白ふとふとふとふと

甚涼すふとふと勝と云

三十二番

友持

花後(病)林のうらみと芳村のこぼるる心成

三十一名

風吹く花林のまをれは横所はらや音心より

左花林より一野丸果ふふ家より一右

ま花の風あふ言こととさう心と

女持か丁の持

三十三番

右持

花後(病)心ひらきとまをれは心ふとこしと心成

名

わさる我のまをらしと月やうと心成

二首の平秋あふ心右花林を

三十一名をえと持しと心より天竺和

國は夫と持し月持と親せりと心成

毛又の持し仍の持

三十三番

右持

王の葉より平持は松の心ふとねるや心成

名

流るる流るる世を流しん秋風流るる

友をを詞少くくして感難押佐名

奇も秋風入くくももももも

流るる心事勝於秋とくく心

仍持とととしまととやけい

ももえの相ふと約る忌詠可厭ふ

アとと

あつとみりとも川に果されるえと

秋風流るる秋風入くく心

心事勝於秋とくく心

仍持とととしまととやけい

ももえの相ふと約る忌詠可厭ふ

あつとみりとも川に果されるえと

作者 西行上人 友名 日之

判者 後成卿

卷之五

卷之五

卷之五

卷之五

卷之五

卷之五

卷之五

九州大學圖書印

一校



百廿八